



6

国立オリンピック記念青少年総合センターが登壇したのは昨年(渋谷区)のカルチャー

棟。今年4月18日、東京チンドン倶楽部(新宿区)代表、高田洋介(56)ら5人がチンドン太鼓、ドラム、サクソ、クラリネットなどでチンドン音楽を披露し、チンドン体験の交流会を開いた。チンドンを学んだのはインド、台湾、豪州、ロシア、ブラジルなど14カ国の中学・高校生と教師計70人。「博報児童教育振興会(博報財団)」が7年前から実施している日本体験プログラムの一環だが、日本文化を体験するためにチンド

ン屋が登場したのは昨年(渋谷区)のカルチャー棟。今年4月18日、東京チンドン倶楽部(新宿区)代表、高田洋介(56)ら5人がチンドン太鼓、ドラム、サクソ、クラリネットなどでチンドン音楽を披露し、チンドン体験の交流会を開いた。チンドンを学んだのはインド、台湾、豪州、ロシア、ブラジルなど14カ国の中学・高校生と教師計70人。「博報児童教育振興会(博報財団)」が7年前から実施している日本体験プログラムの一環だが、日本文化を体験するためにチンド

機動力の伝統体験

国際交流に一役

「ドラえもん」などと盛りだくさんのチンドン体験。豪州から参加した女子生徒、ジェマ・スペート(16)は「声を出して、太鼓をみんなで合唱する。チンドン屋の宣伝口上を参考に、各国の生徒たちがお国自慢をPRするプレゼンテーション」。

2400万人を超えた。東京五輪が開催される2020年に4000万人という政府目標も夢ではないほどに、インバウンドは右肩上がりの急成長を続けている。

旅行会社やイベント企画会社に関心を寄せているのが、報奨旅行、国際会議、展示会などの誘致。報奨旅行というのは海外の企業が売りに貢献した従業員らを招待する海外旅行。100〜2000人規模が大きく、彼らをもてなす和風のエンターテインメントとしてチンドン屋が注目されている。

森本はこうしたイベントでチンドン屋を手間や費用はかからな



博報財団の日本文化体験でチンドン屋と一緒に「お国自慢」をPRする参加者。右端は高田洋介さん

国立オリンピック記念青少年総合センターで

は、報奨旅行や国際会議などのイベント企画・運営会社「イベントサービス」(江東区)社長、森本福夫だ。

「大人数の観光客がパーティー会場に到着すると、チンドン屋が鳴り物で出迎える。パーティーが始まるとチンドン屋が練り歩き、参加者が記念写真を撮る。表彰式などのイベントでは、和風に着飾った従業員の入場をチンドン屋が先導する。ステージの演奏もある。さまざまな場面でチンドン屋は喜ばれます」

チンドン屋の衣装、カツラ、楽器や道具類はすべて自前。化粧も自分でする。普段の仕事では自宅で支度して電車に乗り、現場へ向かうことも多い。高田は「イベントを主催する側からすれば、チンドン屋を呼ぶと余分な手間や費用はかからな

【小松健一】(敬称略)
(金曜日掲載)